

ちがさき都市マスタープラン

地域意見交換会の主な意見及び市の考え方について

※修正の詳細については一部調整中です

目 次

- ・ (1) 鶴嶺東地区 1
- ・ (2) 海岸地区 2
- ・ (3) 茅ヶ崎地区 3
- ・ (4) 湘南地区 5
- ・ (5) 浜須賀地区 6
- ・ (6) 南湖地区 7
- ・ (7) 小和田地区 8
- ・ (8) 湘北地区 9
- ・ (9) 小出地区 10
- ・ (10) 鶴嶺西地区 12
- ・ (11) 松浪地区 13
- ・ (12) 松林地区 14
- ・ (13) 茅ヶ崎南地区 15

■地域意見交換会の主な意見及び市の考え方について（１）

平成 30 年 5 月 19 日（土） 鶴嶺東地区まちぢから協議会役員 28 名

主な意見	市の考え	修正 有無	修正 箇所	修正内容
1.河川改修や適正管理だけでなく遊水池の計画等についても記載をしてほしい。	→県管轄の河川については県と協議を行って行く。市管理の河川整備については個別計画である千ノ川整備計画にて記載あり。	無	—	—
2.雨水対策について J R や県土木事務所と協議すべき。	→庁内関係課に伝える。	無	—	—
3.集合住宅の空き室対策を記載してほしい。	→今後の法整備に合わせて個別計画（空家等対策計画）の見直しも含め議論する。	無	—	—
4.電線の地中化促進を記載してほしい。	→道路整備の個別計画である幹線道路維持保全計画（電線類地中化計画）にて記載あり。	無	—	—
5.都市計画道路の整備、狹隘道路の整備についても記載をしてほしい。	→道路整備の個別計画である道路整備プログラム等にて記載あり。狹隘道路は都市防災分野に位置付けている。	無	—	—
		無	—	—
6.人々が交流できる公園やオープンスペースの創出について記載すべき。	→公園整備に関する個別計画の中で議論させていただく。	無	—	—
7.人集まるように柳島付近の海岸の再生について記載すべき。	→柳島海岸周辺の交流拠点としての整備の一環として位置付けている。	無	—	—
8.相模線の新駅構想の状況は。	→将来都市構造図に都市拠点（新駅構想）の記載あり。	無	—	—
9.自転車のマナー向上に向けての取り組みは。	→交通の個別計画である自転車プランにて記載あり。	無	—	—
10.人口減少と交通の問題を併せて考えてほしい。	→交通の個別計画である総合交通プランにて適正規模の人口維持に基づく地域に適した交通のあり方を検討する。	無	—	—

■地域意見交換会の主な意見及び市の考え方について（２）

平成 30 年 5 月 19 日（土） 海岸地区まちぢから協議会役員 22 名

主な意見	市の考え	修正 有無	修正 箇所	修正内容
1. 都市計画道路の整備を早急に行うか、現実的な計画に変更すべき。	→道路整備プログラム等にて整備優先順位を記載。見直しの必要性は都市計画道路見直し業務により検討を予定。	無	—	—
2. どのような事業で方針を具体化していくのか、具体的な内容を記載すべき。	→都市マスはまちづくりの方針や理念を示すものと位置付けている。個別計画の中で具体内容は記述している。	無	—	—
3. 「別荘地」や「風格ある閑静な住宅」という表現は、現実とかけ離れている。現状や課題を明記した上で表現していただきたい。	→現状の課題も踏まえた上で、本地域の将来像としては「風格ある閑静な住宅のあるまち」をめざしたいと考えている。	無	—	—
4. 理念や方針については、市や市議会で検討してもらい、計画が具現化してきた段階で地域住民に意見を聞くべきではないか。	→骨子案は、学識経験者、市民の公募委員等の意見を聞きながら作成してきた。今後素案を作成しパブリックコメントを行う前には議会での承認を受けていく。	無	—	—

■地域意見交換会の主な意見及び市の考え方について（3）

平成 30 年 5 月 20 日（日） 茅ヶ崎地区まちぢから協議会役員 25 名

主な意見	市の考え	修正 有無	修正 箇所	修正内容
1. 都市機能、都心的機能の定義は。	→用語の使い分けについて精査する。 →市民討議会やアンケート等の客観的な意見を集約し、面積の小さいまちの中に買物ができる場所、海や里山等の自然が色々入っているため、このような表現とした。	有	全本文	用語の使い分けを精査し、必要に応じて修正
2. コンパクトであることを「茅ヶ崎らしさ」としているが、本当にコンパクトと言えるのか。	→拠点機能の向上と、拠点同士の移動時間短縮による近接の意味を含んでいる。 →災害が発生した時、速やかに復旧・復興ができることを「しなやかさ」と表現している。	無	—	—
3. 「都市機能が近接している環境」とは。	→どこの地域でも共通した取組方針がある。今後地域別に	無	—	—
4. 「強さとしなやかさを備えた安全・安心なまち」の「しなやかさ」とは。	取り組んでいきたい方針が出てくれば、地域別の取組方針として盛り込んでいきたい。 →敷地を共同化して公共空地	無	—	—
5. 地域の取組方針に差異がない。年代構成等も地域によって特性が異なるはず。	が創出されれば、居心地の良い空間整備をすることができることを想定している。	無	—	—
6. 共同化とはマンション建築を想定しているのか。	→「みどりの基本計画」で具体的な取組を記述している。 →ユニバーサルデザインへの配慮を基本理念にしているため、配慮は前提条件と考えて	無	—	—

7. 「みどりの空間」が全く足りていない。都市開発とのバランスは取れるのか。	いる。また、個別計画「バリアフリー基本構想」の中で議論させていただく。	無	—	—
8. 認可保育園が駅前に集中している。児童たちの安全を守る視点を持って欲しい。		無	—	—

■地域意見交換会の主な意見及び市の考え方について（４）

平成 30 年 5 月 20 日（日） 湘南地区まちぢから協議会役員 22 名

主な意見	市の考え	修正 有無	修正 箇所	修正内容
1. 福祉関係の取組方針が示されていないがなぜか。	→福祉関係の総合的な計画は別に存在している。適宜整合は取っている。	無	—	—
<u>2. 歴史的資源として、湘南地区には旧藤間家があり地域別構想の中でも触れてもらいたい。</u>	<u>→景観計画やみどりの基本計画と調整を図りながら記載方法を検討したい。</u>	有	南西部地域 都市景観形成	<u>「旧藤間家住宅」を追記【資料 3-1 P112】</u>
3. 地域毎の人口流動はどのように捉えているのか。	→人口減少化の社会の中で、茅ヶ崎らしさや強みを活かしながら若年層をはじめとした人口流入を促進する施策を含めている。	無	—	—
<u>4. 災害時の応急対策として、汚水処理施設の対策が重要ではないか。</u>	<u>→県の管轄のため、汚水処理施設の対策を入れるか否かも含め検討する。</u>	検討中	南西部地域 都市防災	<u>（県と調整中）</u>
5. 乗合交通は、中島からハマミーナへの買物利用も想定されるので検討してもらいたい。	→交通政策の個別計画である乗合交通整備計画の中で議論させていただく。	無	—	—
6. 24 時間利用することができる自転車等駐車場が南西側にない。	→交通政策の個別計画であるちがさき自転車プランの中で議論させていただく。	無	—	—
7. 電線地中化を促進するべき。	→道路整備の個別計画である幹線道路維持保全計画（電線類地中化計画）にて記載あり。	無	—	—
8. 若年層の意見も聞く機会を設けて欲しい。	→広報の仕方を工夫しながら、若年層の意見も聞けるようにしていきたい。	無	—	—

■地域意見交換会の主な意見及び市の考え方について（５）

平成 30 年 5 月 26 日（土） 浜須賀地区まちのちから協議会役員 24 名

主な意見	市の考え	修正 有無	修正 箇所	修正内容
1. 都市マス作成の前提として、津波対策はどのように捉え方針に組み込んでいるか。	→県の予測図から東日本大震災のような大きな被害は発生しないと考えており、防潮堤等のハード整備を進めていくことは方針づけていない。	無	—	—
2. 大規模火災が発生し JR 北側へ避難する際に、踏切が閉まっていると避難できない。地下道へ集中すると二次災害になりかねない。	→今後対策の検討が必要と思われるため、庁内関係課へ伝える。	無	—	—
3. 東海岸寒川線の鉄砲道から桜道区間は用地買収済み区間があるので早期に整備を進めるべき。	→庁内関係課へ伝える。	無	—	—
4. 空き家になっている敷地等を自治会がフリースペースとして活用できないか。旧耐震空き家の耐震化も誘導していくべき。	→住環境の個別計画である空家等対策計画にて記載あり。相談に応じて個別に誘導している。	無	—	—
5. 行政が鉄道事業者等と協働せずに単独でまちづくりを行っていることは、今後人口が減少していく 20 年後には大きな問題となるのでは。	→人口減少化の社会の中で、茅ヶ崎らしさや強みを活かしながら若年層をはじめとした人口流入を促進する施策を含めている。	無	—	—
<u>6. オープンスペースについては浜須賀地区において不足していると感じている。</u>	<u>→公園等の公共施設整備について強化する記載を検討する。</u>	有	<u>分野別取組方針 南東部地域 その他 5 地域 住環境整備</u>	<u>「公園の配置にあたっては、公園が不足し充実が求められる地域へ、クラスター（延焼運命共同体）状況や空地の分布状況を踏まえながら検討します。」を追記</u> 【資料 3-1 P.77,93,103,113,123,133,143】

■地域意見交換会の主な意見及び市の考え方について（6）

平成 30 年 5 月 29 日（火） 南湖地区まちぢから協議会役員 18 名

主な意見	市の考え	修正有無	修正箇所	修正内容
1. 都市計画道路の整備を早急に行うか、現実的な計画に変更すべき。南湖深田線の計画は廃止すべき。	→道路整備プログラム等にて整備優先順位を記載、見直しの必要性は都市計画道路見直し業務により検討を予定。	無	—	—
2. 「現状と課題」の認識が不十分で、問題点は何か明確でないため、計画に現実味がない。	→都市マスタープランというのは、「まちの将来像を描いていく計画」という位置づけで考えている。現実的な内容は個別計画で進めていく。	無	—	—
3. 津波被害を最小限にできるような具体的な対策を盛り込んでもらいたい。	→津波に関しては「地震に強い都市基盤を整備していく」という方針の中に含まれている。津波からの避難方法は、地域防災計画等で詳細を記述していくべきものとする。	無	—	—
<u>4. 地震ではなく、津波に耐えられる建物にするとは記載されていない。</u>	<u>→津波災害も視野に入れている事が分かるように記載方法を検討する。</u>	有	分野別取組方針 南東部地域 南西部地域 都市防災	<u>「地震、津波、クラスター（延焼運命共同体）内における火災延焼等の災害種別に応じた」を追記</u>
5. 南湖地区の津波による被害状況を想定した避難場所の設定等を検討してもらいたい。	→津波が発生した際の避難場所、具体的な津波対策については地域防災計画で記述している。	無	—	—
6. 緑地や河川環境の保全についてどう考えているのか。	→緑地の保全についてはみどりの基本計画、河川については水循環水環境基本計画で記載している。	無	—	—
7. 高齢者が買い物をしにくい環境になってしまっている。どのように商店街を活性化していくのかを都市マスタープランに記載してもらいたい。	→必要に応じて、商業施設等ができる沿道用途地域を増やしたり、住宅地の中に商店等が建てられるような地区計画等のローカルルールを設定することも考えられる。庁内関係課へ伝える。	無	—	—

■地域意見交換会の主な意見及び市の考え方について（7）

平成 30 年 6 月 5 日（火） 小和田地区まちぢから協議会役員 24 名

主な意見	市の考え	修正 有無	修正 箇所	修正内容
1.小和田地区で最も問題視されているのは、クラスター火災と交通問題である。これらの問題を 20 年間で改善できるのか。	→クラスター火災の解消や狭あい道路の改善については、都市マスタープランに方針は記載しているが、詳細は個別計画で議論していく。	無	—	—
2. 都市マスタープランの中で 20 年間の達成目標は設定するのか	→狭あい道路の解消率やクラスターの解消率等の具体的な数値については、個別計画で検討していく。	無	—	—
<u>3. 小和田地区には公園や横断歩道が少ない。公園等の公共施設整備を記載すべき。</u> <u>多世代が暮らす地域になってきている。このような地域をどう活性化させていくかが課題だと思う。</u>	<u>→公園等の公共施設整備について強化する記載を検討する。</u>	有	分野別取組方針 北東部地域 その他5地域 住環境整備	<u>「公園の配置にあたっては、公園が不足し充実が求められる地域へ、クラスター（延焼運命共同体）状況や空地の分布状況を踏まえながら検討します。」を追記</u> 【資料 3-1 P.77,93,103,113,123,133,143】
5.都市計画道路の整備、狭隘道路の整備についても記載をしてほしい。	→道路整備の個別計画である道路整備プログラム等にて記載あり。	無	—	—
6. パナソニックの工場跡地の活用については、都市マスタープランに記載するのか。	→大規模施設等の跡地の開発がある場合には、市が適切な土地利用を誘導する旨を記載している。	無	—	—

■地域意見交換会の主な意見及び市の考え方について（８）

平成 30 年 6 月 10 日（日） 湘北地区自治会連絡協議会役員 29 名

主な意見	市の考え	修正有無	修正箇所	修正内容
1. 香川駅前広場は整備済みと捉えかねないような説明があった。香川駅周辺まちづくり検討会での検討内容と都市マスタープランは整合とれているのか。	→香川駅周辺まちづくり計画と整合をとっている。まちづくり計画のなかでは駅前広場の最終形が示されているが、現在の駅前広場は暫定形であると認識している。	無	—	—
2. みどりをどのように保全していくのか。河川に市民が親しみを持てるようにするには、どのように整備すれば良いのか。この視点を盛り込んで欲しい。	→具体的な施策等については、みどりの基本計画に記載していく。	無	—	—
3. みどりが少ない現状に対する改善策を明確に示してもらいたい。	→みどりを残す手段を考える必要があると分野別の取組方針にも記載している。具体的な手法については、個別計画に記載していく。	無	—	—
4. 鉄道の将来展望を確かめた上で、新駅の問題や香川駅周辺の土地活用、道路網の整備等の問題を検討してもらいたい。	→鉄道関係については JR と積極的に協議を進めていく。土地活用、道路網の整備等の問題については個別計画において、必要性を検討する。	無	—	—
5. 地域経済の活性化について市民のアイデアを生かして支援策を実現してほしい。	→産業ビジョンによるところもあるので、担当課にその旨を伝える。	無	—	—
6. 「厳しさを増す財政状況」について、具体的な施策はあるのか。	→個別計画を策定するにあたって、財政状況が厳しいことを理解した上で、工夫をしつつ施策に取り組んでほしいという意味で記載している。	無	—	—
7. 現行の都市マスタープランの評価がどう行われているのか	→「ちがさき都市マスタープラン確認委員会」で進捗状況を確認している。結果は市のホームページに掲載している。	無	—	—

■地域意見交換会の主な意見及び市の考え方について（９）

平成 30 年 6 月 11 日（月） 小出地区まちぢから協議会役員 23 名

主な意見	市の考え	修正 有無	修正 箇所	修正内容
1. 市境のまちづくりの整合性や線引きの見直しについて、藤沢市と協議する必要がある。	→藤沢市の計画との整合には留意しており、平塚市や寒川町を含めて担当課にヒアリング等を行うことによりすりあわせを行っている。 線引きの見直しは県の指定である。人口減少に向かう現在では、市街化区域への編入について県と合意を得ることは困難である。沿道商店の存続など、必要な対策に関しては、ハードルは高いが地区計画等の活用も含めて検討可能である。	無	—	—
2. 国の特別法で市街化調整区域でも一定の対応が可能とされている。小出地区は市の平均以上に高齢化が進行しており、地区の活性化のため、小出中央通り沿道を市街化するなどの対応が考えられないか。	→市街化区域への編入は難しいが、他の方法での若年層の流入促進などの対応に、茅ヶ崎らしさも活かしながら取り組んでいきたい。	無	—	—
3. 地域に居住する住民のことが全く考えられていないのではないか。市街化調整区域のままでは、今後、さらに人が流出してさびれるのではないかと懸念している。	→ハードルは高いが、密度が高く一定の範囲で住戸が立地している地域を市街化区域へ編入するという手法があるかについては、都市計画部局に確認する。	無	—	—
4. 快適な住空間、住みやすいまちのためには、一定の人口規模が不可欠であり、対策を都市マスタープランに位置づけて欲しい。	→商店の維持については交流拠点の整備などと一体的な対応を検討したい。ソフト面での対策の可能性については、経済部に確認する。	無	—	—

<p>5. 建物整備より道路整備が重要であり、整備を実現して欲しい。</p>	<p>→都市計画道路の定期的な見直しを行っており、新たな都市計画道路を計画するに当たっては、そこで検討することとなる。道路整備の優先順位づけについては、個別計画及び総合計画実施計画において議論する。</p>	<p>無</p>	<p>—</p>	<p>—</p>
--	---	----------	----------	----------

■地域意見交換会の主な意見及び市の考え方について（10）

平成30年6月16日（土） 鶴嶺西地区まちぢから協議会役員 18名

主な意見	市の考え	修正 有無	修正 箇所	修正内容
1.厳しい財政状況と整合を取った上で計画すべきでは。	→都市マスはまちづくりの方向性を示したものであり、財政状況を考慮した事業の優先順位は総合計画の実施計画にて定めていく。	無	—	—
2.予算の検討がないため、計画が絵空事になり説得力が欠けているのでは。	→厳しさを増す財政状況に対して、先延ばしするのではなく工夫して予算を縮小し取り組むことを盛込んでいる。	無	—	—
3.相模線の新駅構想について実現性はあるのか。	→計画が具現化した際に関連する都市計画道路や駅周辺の区画整理事業等を速やかに進めるため都市マスに位置付けておく必要がある。	無	—	—
4.茅ヶ崎ゴルフ場の跡地利用について都市マスに防災の視点として取り上げないのか。	→都市マスでは避難に必要な空間を確保することを定めており、茅ヶ崎ゴルフ場跡地についても防災空間として確保していく方針は変わっていない。	無	—	—
5.茅ヶ崎市は自然死の率が高く注目されている。持続していくためにはコミバスを普及させる等、高齢者が行動しやすいまちづくりに取り組む必要があるのでは。	→地域のなかでコミバスを重要視しているのであればアンケートにてご意見を頂き地域別構想のなかで追記を検討する。	無	—	—

■地域意見交換会の主な意見及び市の考え方について（11）

平成30年6月20日（水） 松浪地区まちぢから協議会役員28名

主な意見	市の考え	修正有無	修正箇所	修正内容
1.ごみ問題について抜けているのでは。	→都市マスはまちのハード整備の方向性を記載しているが、庁内関係課に確認し都市マスに反映すべき事項があれば反映する。	無	—	—
2.海岸環境に関するごみや下水について分かりやすい取組を位置付け、市・県・国が連携して対応してほしい。	→県・国との連携については、庁内関係課と意識の統一を図る。また海岸の保全は国県市の役割分担に基づき対応できるように働きかける。	無	—	—
3.小和田消防署跡地の利活用について自治会との情報交換の場を設けてほしい。	→庁内関係課へ伝える。	無	—	—
4.大きな土地を細分化する開発が進み延焼クラスターの元凶となっている。空き地が増加する中で、緑地や公園として活用に取り組むべき。	→地区計画制度を活用し、敷地面積の最低限度を規定するといった対応が考えられる。	無	—	—
5. 緑が浜では大きな場所だけでも4箇所で細分化が進み、いずれも緑地が確保されていない。都市マスに示された理想を具現化できる制度を、覚悟を持ってつくって欲しい。	→緑地確保の実効性を高める対応について、検討するとともに、延焼防止について必要な対策を庁内関係課とさらに検討していく。	無	—	—
6. 予算に裏付けられた各論がどの程度ついてくるかが重要。目標とするべき重点施策を位置づけ、財源を確保し実行してほしい。	→都市マスで位置づけられた施策が必ずしも優先される保証はないが、位置づけがなければ事業化が難しくなる。	無	—	—

■地域意見交換会の主な意見及び市の考え方について（12）

平成30年6月22日（金） 松林地区まちぢから協議会役員17名

主な意見	市の考え	修正 有無	修正 箇所	修正内容
1. 千ノ川はきれいな水を活用できるようにせせらぎのように整備してほしい。	→千ノ川整備実施計画により整備を行っていく。大規模な事業となるため実現可能性の検討が必要。要望は庁内関係課へ伝える。	無	—	—
2. 自転車での移動を楽しむとされているが、全市的に移動がしにくい。各都市拠点間を結ぶルート整備を検討してほしい。	→都市拠点へのアクセス性や、移動が楽しくなるようなルートや空間の整備を進める方向性を目指している。施策は広範囲に影響が及ぶため様々な個別計画が連携し、優先順位を定めて進めていくこととなる。	無	—	—
3. 北東部地域のように市中心から離れているところは、施策が後回しになってしまう。優先順位を定める際にも違った角度から検討をしてもらいたい。また施設は一部の地域を集中的に整備するのではなく、均等に配置してもらいたい。	→総合計画実施計画において、費用対効果や他の分野の計画との実施の優先付け等を行っている。地域間格差がなくなるように、庁内関係課と意見を共有していく。	無	—	—
4. 後期高齢者が車や自転車に乗れなくなり買い物難民になってしまう等の不安を抱えている。どのような対策や施策をもって支えていこうとしているのか方向性を示してほしい。10年前から交通体系整備を要望しているが一向に進まない。	→個別計画である「乗合交通整備計画」では路線バスやコミバス、予約型乗合バス、での対応を進めている。またそれ以外の手法を用いた公共交通の在り方という考え方も出てきているため、交通空白地域での対策等、様々な手法を用いた対策を、地域に入って模索していきたい。	無	—	—

■地域意見交換会の主な意見及び市の考え方について（13）

平成30年6月23日（土） 茅ヶ崎南地区まちぢから協議会役員15名

主な意見	市の考え	修正有無	修正箇所	修正内容
1. 地域区分について、まちぢから等の13地区や小学校区等市全体のバランスを総合的に考えて決めるべき。	→13地区分けや道路・土地利用状況等の特性を勘案し、さらに、現行計画からの継続性も重視し、7地域の分けとしている。	無	—	—
2. 国道1号とJRで南北に分断され、北側と南側で異なっている交通等の条件に応じたまちづくりが必要である。北、南、中央の3つの大きなエリアの条件に応じた検討が必要ではないか。	→地域区分については、各計画で、各々の計画内容に見合った区分を行っている。市全体の方向性は全体構想の将来都市構造図で位置づけている。	無	—	—
3. 中心市街地地域の地域整備方針図で、桜道の都市計画道路の計画路線が点線で表示されているが、桜道が整備されており、不要ではないか。都市マスを改定する中で、都市計画道路の見直し、変更を実現すべきである。	→現在当該都市計画道路の位置づけは、保留付き存続となっている。都市計画道路の見直しを定期的に行っており、次回の見直し時に、代替路線があるか等の観点から、見直しを検討する。	無	—	—
4. 狭隘道路は、住民の協力を得ながら順次解消に努めるとされているが、市が狭隘道路として対策が必要と考えている路線を住民に示して欲しい。事前に住民へ適切な情報提供を行い、市としての政策を示すことが都市政策のあり方ではないか。最大の懸案事項は、クラスターをどう解消するかにある。	→都市マスにはクラスターの軽減や、防災上の空間確保等の取組を位置づけており、こうした方針の基に平成24年に、低層住宅地には敷地面積の最低限度を100㎡とする規制を実施。準防火地域の指定見直しも最近行ったが、今回の都市マスに位置づけた方針に従い、今後さらに必要な対策を検討し、実施していく。	無	—	—

<p>5. 計画的に公園をつくることについて、予算の制約があることは承知しているが、みどりの確保は防災にもつながる施策であり、都市計画の中での緑地確保を位置づけるべきではないか。</p>	<p>→市内に公園を計画的に配置していく必要があると認識しており、都市マスに対応を記述することを検討している。公園整備計画はないため、庁内でも必要ではないかと議論をしており、個別計画での具体化を検討していく。</p>	有	<p>南東部地域 その他5地域 住環境整備</p>	<p>「公園の配置にあたっては、公園が不足し充実が求められる地域へ、クラスター（延焼運命共同体）状況や空地の分布状況を踏まえながら検討します。」を追記 【資料 3-1 P.77,93,103,113,123,133,143】</p>
<p>6. 空き家・空き地は市で土地を確保し、30～50年スパンで計画しない限り、緑地確保は困難ではないか。</p>	<p>→空き家、空き地対策での緑地確保は、今後、手法を検討し対策を進めていく。</p>	無	—	—
<p>7. 7軒だった住宅が39軒に分譲され、みどりが減少した。都市計画とごみの問題が切り離され、ごみは自治会に丸投げされているが、一体に検討するべきではないか。景観を阻害している。</p>	<p>→ごみ置き場は、一定規模以上の開発行為に対して規制があるが、建替では規制がかからない。環境部局と情報共有し対応を図る。</p>	無	—	—
<p>8. 駅から海に行くメインとなる道が来訪者にわからない。商業地区のあり方や食文化の方向にも影響する課題となる。</p>	<p>→茅ヶ崎駅南口広場の改修を検討しており、その中で、サイン計画の具体化を検討していく。</p>	無	—	—